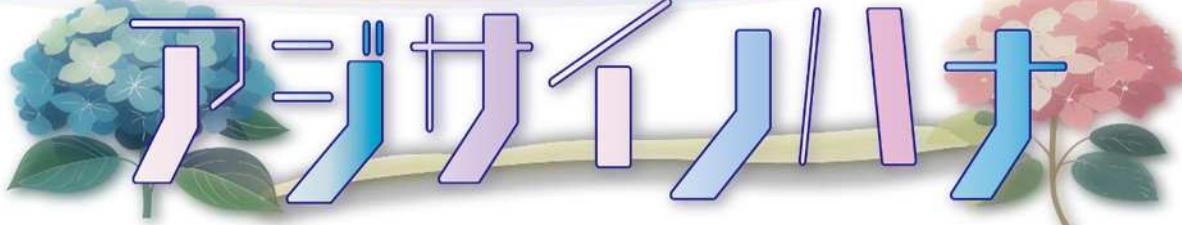


豊田市立崇化館中学校校長室だより



令和7年6月20日(金)発行(文責:松原秀敏)



崇化館中学 ほこりあれ

吹奏楽部の演奏に合わせた選手入場、選手代表による選手宣誓、各部の決意表明、麦の会や1・2年生からエール、そして、全校生徒による熱い拍手と力強い校歌、すべてが「心」に響いてきました！

「心をみがき、身をきたえ」

校歌一番の一節です。今までの日々は、まさに、この一節のようであったと思います。いろいろなことがあったでしょう。憧れて、好きで始めた部活動なのに、嫌いになりそうになったこともあったかもしれません。その度に、自分と向き合い、考え選択した、今の自分の決断に自信をもってください。

「踏まれた麦は強くなる」

今年も麦の話をします。何度も踏まれ、冬を越した麦の芽は、踏まれなかつた麦よりも強く、大きく育ち、最後は豊かに実るのだそうです。

明後日からの大会・コンクールの中で、ミスをしたり、失敗したりと、何度も「心」が踏みつけられるような試練があるかもしれません。

人は、ミスも失敗も、間違いもします。そこからが勝負です。ここにいる仲間と共に、「さあ、次！」と気持ちを切り替えてください。

競い合う相手校も真剣です。だから、グランド・コート・ステージに立つプレーヤー・演奏者だけでなく、ベンチもスタンドも観客席も、一体となって、「さあ、次！」と気持ちを切り替えて挑んでください。

「崇化館中学 ほこりあり」

校歌一番の最後の一節です。麦のように、踏まれるほどに、強い芽を出す。それが、崇化館中学のほこりです。この夏、全校のみなさん一人一人が、「心の名場面」を見つけることを願っています。応援しています。みなさん、頑張ってください！

(令和7年6月19日 SCA 壮行会より)

ガンバレ！ 崇中生！